

・家庭との連携	・保育内容や子どもたちの園での様子を知っていただくために、インターネットによる会員限定の写真公開、販売を行っている。参観や公開行事では何うことのできない普段の様子を知って頂くよい機会になっていると考えている。かつて問題のあった、一度の掲載枚数や掲載回数も見やすい様に工夫し、掲載日程の固定化も図った事で、安定して閲覧出来る様になった。 また、日々の保育をわかりやすく写真付きのもので掲示できるシステム(コドモン)を導入し、これまで手書きの文章で日々の様子を掲示していたものを、写真付きのより分かりやすい内容にリニューアルし、保護者の方にも“保育の見える化”を図ることが出来るようになった。 ・子ども達の事や当園の活動内容等も知って頂き、地域の方々ともより良い形で連携を取れる様にとの思いで、当園が作成している“園だより”を、近隣の小学校等に向けて送付していたが、より迅速に、さらに内外に広くお知らせする意味でも、当園のホームページに個人名等は伏せた簡易版の園だよりを掲載する様にした。今後も、様々な所と連携を図って行きたい。
・預かり保育の充実	・昨年同様、夏期預かり保育を行った。利用者は延べ409人であった。また通常保育時の預かり保育では平均12人、全園児の22%が利用していた。 これらは保護者の仕事や用事がある際に利用されることはもちろんだが、子どもたち同士の交流の場ともなり、預かり保育ならではのゆったりとした時間、異年齢児との関わりの中で、様々な遊びが発展していく光景を垣間見ることが出来るものである。昨年度からは春期・冬期にも預かり保育を行い、大多数の方が利用されていたので、今年度は、日数も増やして行った。今後も、引き続き継続して行きたい。
・環境設備の充実	・毎年の園庭樹木の剪定や消毒、ピアノ調律に加え、昨今、問題となっている、性被害防止対策として、パーテーションの購入を行った。また、体幹を鍛え、運動器具も購入し、既に活用している。 また、ももぐみの保育室には、リングタワードミノという玩具も導入し、保育環境の充実を図った。 今後も、より良い環境の充実を、積極的に計って行きたいと思う。

4. 学校評価の具体的な結果や計画の総合的な評価結果、および今後取り組むべき課題

・教職員は各クラスの実態の把握、そこから、保育案の作成、実施、反省と一連の流れの中で保育を行うことが出来る様心掛けた。その中で、園児一人一人に必要な援助を、研修や園内の協議で分かち合ったことも踏まえ、実践するよう努めた。教師が定めた目標に達しないこともあったが、それを受け止め、子どもたちと共にどのように成長していくことが出来るかを考え、次に活かすこ